

2) 未利用熱エネルギー革新的活用技術研究開発

2) -1 業務用空調システムの実働エネルギー効率評価法の開発【持続可能】

研究開発期間（平成 25～29 年度）

〔担当者〕 西澤繁毅

本研究開発課題では業務用空調システムのうち、近年採用事例が増加している個別分散型空調システムを対象とする。空調システムの実際の運転においては、製品情報で表示されているような定格能力や中間能力での運転時間は少なく、運転時間の約 8 割は定格能力の 40%以下である。また 1 台の室外機に接続されている複数の室内機での処理能力合計が等しい場合であっても、室内機個々の運転状況によってエネルギー効率は異なる。

本年度は、個別分散型空調システムの実運転で想定される低負荷運転および負荷偏在に対応した効率評価手法の適用範囲の拡張を目的とし、暖房運転時において室内機の運転台数の違いが実働特性に与える影響について、実験的な検討を行った。

平成 29 年度に終了した研究開発
【外部資金による研究開発】